

令和4年度 第2回博物館協議会 議事録

日時：令和5年2月10日（金）14：00～16：00

場所：八戸市博物館 2階 体験学習室

出席委員（8名）

（会長） 工藤 竹久
（副会長） 滝尻 善英
元沢 弘志
有馬 克美
川口 桂子
正部家 朱美
蔦川 誠
磯沼 チヨ

事務局出席者（6名）

小保内 裕之（博物館館長）
下村 恒彦（博物館副館長）
竹洞 一則（資料館館長）
市川 健夫（博物館主査兼学芸員）
野沢 江梨華（博物館主査兼学芸員）
中尻 貴之（資料館主査兼学芸員）

次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 案件
 - (1) 令和4年度事業実施報告について
 - (2) 令和5年度事業計画について
 - (3) その他

※1～2省略

【3案件（1）令和4年度事業実施報告 質疑応答】

（事務局説明後、質疑応答）

<博物館分>

●会長

事務局より令和4年度の事業について報告していただきました。まずは夏季特別展「ナゲモノ拾いから始まった」について伺いたいことはございますか。

●委員

浜小屋関係の展示をしたのは今回が初めてですか。

○事務局

過去に漁撈用具の展示はしたことはありましたが、前回展示してから大分期間が経っております。

●委員

民俗資料の保存のあり方について、どのように考えておられますか。

○事務局

先般、津波ハザードマップの改定があって、浜小屋・収蔵庫とも津波浸水想定区域内に含まれることが分かり、移転が必要な状況です。移転先は、博物館とする案と、現在の保管場所の近くに移す案の二通りが考えられます。大久喜の漁撈用具は、もともと地元の漁師が自ら集めた資料ということもありますので、地元の意向を調整しなければ進められないと考えております。

今後は、話し合いの場を設けて議論しながら進めていきたいと考えています。

●委員

民俗資料は特に保存環境に注意しなければならないと思います。適切な温湿度管理をはじめ、文化財の保存環境を整備することは急を要する課題だと思いますので、関係者とよく話し合っ、適切に対処していく必要があると思います。

●委員

漁撈用具は常設展示室にもありますから、博物館に移すというのが一番いいと思います。

●会長

あと何かございますか。

●委員

今回ギャラリートークに参加してみて思ったのは時間が長いということです。学芸員の伝えたいという熱意はすごく伝わってきますし、内容も面白いのですが、聞いている側からすると、1時間を超えると集中力を保てなくなります。

要点を絞って説明するような工夫があってもいいのではないのでしょうか。熱意はとて伝わってきたのですが、そのようなことを感じました。

●会長

特に子どもは飽きっぽいですから、心を掴んだら早めに終わらないと。次に、秋季特別展「透明なうたかた」に関して、何か感じられたことはございますでしょうか。

●委員

「透明なうたかたーガラスびんに映った近現代ー」というタイトルにひかれて、興味深く拝見しました。テーマ、視点も面白くて、環境問題にもつながっていて非常に勉強になりました。

身近な生活用品を紐解いていく特別展を今まであまり見たことがなくて、異色かなと思ったのですが、過去にもこのような特別展は開催されていたことがあるのでしょうか。

○事務局

今回が初めてです。

●委員

ポマードのびんをはじめ、さまざまな飲み物のびんとか、古くからあるものを集めて展示されていましたが、こうした展示は子どもの勉強にもなるので、また機会があったら、同じような視点でやっていただくと非常に新鮮だなと思っておりました。ちなみにどういったところからこの企画は始まったのですか。

○事務局

発掘をやっていると現場ではびんがたくさん出てきます。現場では邪魔物なのですが、そうした物もある程度たまってくると一度展示したくなるものです。今回そうしたタイミングを迎えたということで、特別展として取り上げてみたという経緯です。

●委員

そういうことなのですね。びんの形が変わっていく変遷とか、どこの国の物かというのが分かって非常に面白かったです。また是非ともこういったものをしていただければと思っております。

○事務局

不要なびんも資料としてそれなりに評価ができるようになってきたということがあると思います。

●会長

次、企画展に関して何かございませんでしょうか。

●委員

ウサギ限定でぬいぐるみお泊り会というのがありますけれども、これは博物館の事業としてどんな狙いを持っていたのですか。

○事務局

普段見ることができない博物館のバックヤードにぬいぐるみを入れて写真を撮って、ぬいぐるみを持って来た方にそれをフィードバックします。そうしたやりとりを通して博物館に愛着が湧き、更には集客につなげるということを狙っております。

●委員

ぬいぐるみを一泊二日とかということで預かるわけですか。

○事務局

ぬいぐるみは干支にちなんだものを集めています。博物館に一泊させるのですが、その夜にいろいろな部屋に忍び込んで写真を撮っていきます。

●委員

面白いですね。SNSでそうしたイベントを見たりしていると、子ども向けなのかなというので興味をそそるし、かわいい。

●委員

普段あまり見られないようなことを伝えられるという楽しみがあるんじゃないですか。

●委員

私からはミニパネル展「八戸の災害」について。津波浸水想定区域が改定されていますので、整理して周知してもらうような展示にしていただければいいと思います。

また、津波のシミュレーション映像なども活用して、大震災の記憶が薄れないような工夫をしてもらえればいいのかと思います。

あと、えと展で動物が出てくるのですが、できるのであれば動物のはく製などリアルなものを展示してもらえれば、興味が湧くのではないかと思います。

○事務局

えと展では、はく製を何点か展示しております。

あとは、八戸の災害に関してですが、関連施設に「みなっ知」もありますので、お互い相談しながら、内容が重複しないようにやっていければと思います。

●会長

それでは続いて、教育普及活動に入ってもいいですか。これは毎年決まっている事業の継続という感じで見えていたけども、いかがですか。

●委員

青森大学薬学部の先生を招へいた講座もありますが、広場には館外に薬草園もありますし、こうしたテーマを継続的にやってみるのはいいと思います。

○事務局

史跡根城跡環境整備事業の一環で活用ワーキング会議というのがあるのですが、その会議がきっかけで青森大学薬学部と組んだ講座が実現しました。

まさに薬草園の今後の整備・活用について、青森大学と共同で今作業させてもらっていて、前年度はお屠蘇(とそ)作りというのを、やはり生薬を活用したワークショップということで開催させていただいております。

●委員

資料5ページの糠塚不動尊の調査報告会についてです。この会議の中で、その都度進捗状況を伺っていたのですが、それがまず完成したということでその報告を兼ねた現地説明会が開催されましたが、素晴らしい企画だったと思います。長者公民館で概要を説明したあと糠塚不動尊に行って学芸員が解説をしてくれた。ここにいる委員の皆さんと一緒にきたかったと思うぐらい内容が素晴らしかったのですが、一つ感じたのは、もう1回やってもらえないかということです。

参加したのはわずか12人ですし、この12人がほとんど地域の人でした。素晴らしい内容ただけにもう少し参加者の範囲を広げて、開催してもらってもいい

いかなと思ったところです。

○事務局

調査に長い時間が掛かったこともあり、今回の報告会はずは現地の方にお返しするというを目的として開催しました。他の地域からも「うちのお堂、お宮をどうにかできないか」という話がでてきております。ただ、博物館の人員では希望をすべて対応するわけにはいかないですし、御神体を預かることもできませんので、基本的にはその地元で対応してくださいということになります。糠塚に関しては御神体を南宗寺に納めたということで、調査が始まったという経緯がございました、今回は一つのモデルケースとして、また別ケースでも活用されることになろうかと思えます。

委員のご要望の現地説明会については別な名目での開催ということになるかと思いますが、前向きに検討したいと思えます。

●会長

結構年数がかかっていました。その分、中身のある報告ができるのではないかと思いますね。今回の提言をぜひ反映してもらえればと思います。

それでは、文化財の保存活用のほうに入っていきます。資料7ページに市内中世城館周知パンフレット作成とありますけど、これは今までこういうものはなかったと思います。もうできているのですか。

○事務局

今、校正中で、3月に完成する予定です。

●会長

どんな内容になっているのでしょうか。

○事務局

中世城館に関する事、戦国時代に関する事の解説のほか、市内の主要な城館ということで根城や新田城などの解説を入れています。

●会長

次は、史跡根城の広場の方に入ってもらいたいと思います。ここで何かありますか。

資料8ページの体験学習講座で、「虫 むし GO! ～自然に触れよう～」、これは初めてではないでしょうか。参加者数を見ると定員より多く参加者があったみたいですが、どんな雰囲気で開催されたのでしょうか。

○事務局

こちらにも活用ワーキング会議がきっかけになった事業です。八戸インセクト研究会代表の蒔田さんにお越しいただきまして、広場を先生と子どもたちが一緒に歩きながら、虫の解説をしていただきながら捕まえて、中館の四阿に集まって、そこで虫を観察しながらスケッチをしたりして、昆虫について理解を深めるというような内容になっています。

子どもたちからは盛況で、中には虫かごにいっぱい虫を捕まえて帰っていった子どももいました。

●委員

対象は小学生ですか、それとも幼稚園児ですか。

○事務局

小学生を対象にしておりますが、例えば兄弟で、園児の人達も一緒にという場合もありました。それはもちろん受け入れて一緒に楽しんでいただけたというように思います。

●会長

これは、もう少し続けてやっていってもいい感じがしますね。

○事務局

今後も史跡根城の広場と協議しながら、次年度以降も開催については調整したいと思っています。

●会長

資料9ページの「実のなる木の収穫体験～梅～」に関して。これは収穫体験、収穫してそれで終わりなのですか。

○事務局

幼稚園児が参加されており、いろいろな使われ方をしているかもしれませんが、この事業に関しては収穫して終わりということになります。

●委員

本丸主殿の耐震診断を行っておりますが、結果はどうでしたか。

○事務局

現在、弘前文化財建築研究所や(公財)文化財建築物保存技術協会とともに事業を進めております。

正式な報告はまだこれからなのですけれども、建物としては非常に柔軟で強度も保たれていると伺っております。今後も継続的に本丸主殿を使用していくうえで、必要となる補強箇所を示していただく予定であります。

●委員

この主殿を復原した頃は木造平屋でこれだけ太い材を使っているし、地震で揺れてもすぐ逃げられる建物なのでそこまでは心配はないという常識的な判断をしたような気がしますけども、それでは今はだめなのですか。

○事務局

端的に言うと耐震面に関してはすごくいい建物なので、今後は部分的に補強するだけでよいという診断結果をもらっています。

●会長

少し安心しました。近年、文化財の防火基準が厳しくなっていますので、設備整備に予算がかかるかなと心配していたところでした。

あと、イチョウの木の根が大分踏みつけられて傷んでいるという話を伺っていましたが、その件は大丈夫なのでしょうか。

○事務局

イチョウの樹勢回復に向けては、八戸市森林組合と県の樹木医協会の協力を得ながら進めているところです。

ご指摘のとおり、イチョウの根周辺は地面が固く、中の養分が不足している状況でしたので、今後、土壌改良をしながら樹勢の回復を図っていく必要があるとの診断を受けております。

●委員

「イチョウ Week!」を続けながらでも大丈夫ということですか。

○事務局

それは問題ありません。今後、イチョウの根に薬剤を注入する必要があるのですが、その作業を地域の住民の方と一緒にやるようなイベントも企画したいと考えております。

●会長

これで史跡根城跡整備関係を終わらせていただきます。

次に南郷歴史民俗資料館のほうに入っていきたいと思っております。何かございますか。

●委員

今年の特別展は昭和がメインになっていましたが、今は昭和レトロブームもあり、皆さんが懐かしく感じていると思いますので、そこをPRしていただければいいのかなと思っております。

常設展示にはメリーちゃんやリカちゃんの人形に加え、今回新たにペーパーアート作品が加わりましたので、この3つが揃えば結構インパクトあるのではないかなと思っています。新しくパンフレットを作る際はその3つを強く推して、PRしてもらえればいいのではないかなと思っています。

●委員

島守地区は一昨年からバスが廃止になっております。南郷歴史民俗資料館でいくら面白い特別展を開催しても、アクセスの問題からなかなか集客できないという問題があると思います。集客はやはり交通の便に尽きると思います。

●会長

そうですね。

●委員

私も資料館の特別展は視点や切り口が面白いと思っています。先ほど公共交通でのアクセス方法がないとの発言がありましたが、このことは非常にもったいなく思っています。

南郷一周巡りとか湧き水巡りの参加者は少しずつ戻ってきているのですかね。コロナが落ち着いてきていると考えてもよろしいでしょうか。

○事務局

募集人数は以前 24 人だったものを 10 人に絞って開催しております。まだ定員を減らして開催をしている状況にあります。

●委員

ありがとうございます。クジラ展、葉たばこ展、映画館展と、とても興味深いテーマばかりですし、今昭和レトロブームが来ていますので、いろいろ促進していただければ、更にまた充実した内容になると思います。

●会長

コロナが収まってくると、定員を元に戻せるということですよ。

○事務局

通常時の定員まで戻せるかと思っております。

●委員

改めて資料をしっかりと目を通していたのですが、本当に多岐にわたる事業内容をやっておられると感心しております。特別展・企画展に限らず、各種講座、フィールドワーク、体験学習など本当に多岐に渡っており、博物館の職員の方が働き方改革は大丈夫なのかなと思うくらい様々な事業をやられているなどということに対して、頭が下がる思いでした。

先ほどのいろいろな皆さま方の話を伺って、博物館の目的の中にこれはおそらく主たる目的なのかどうか分からないのですが、入館者を増やすというのがあるとするれば、どのようなことができるのかという視点で説明を伺っていました。

的外れになるかもしれないですけど、著名な方、比較的テレビ等の歴史の番組等で名の知れた方が来ると、おそらく歴史好きの方はおそらくいっぱい来るだろうかと思います。

また、ふと思ったのが、展示物をよく借用したいというのがありますよね。例えば盛岡や秋田市など遠方に行かないと見られないものがもし借用できて相互にやりとりが出来れば、わざわざ盛岡まで行かなくてもいいな、秋田まで行かなくてもいいなとなれば、宣伝等がもしもあれば客足が伸びるのかなと思いついておりました。

話は変わりますが、新聞で南部町の歴史に関する記事がよく出ています。聖寿寺館の発掘体験ということで、よくどこかの小学校が発掘していますよというのが記事になっているのを見ます。発掘体験は専門家立会いのもとでやらないとなかなかできないとは思いますが、そういう体験行事のメニューを用意するとそれが呼び水となって入館者数増につながっていくのではないかと考えていました。

●会長

ありがとうございました。もう少し著名な講師を呼べればということだと思っておりますけども、八戸市民大学もありますので、すみ分けが必要なるかもしれないですね。

その他、意見・質問などがなければ次の案件に移って行ってよろしいでしょうか。

【案件3（2）令和5年度事業計画 質疑応答】

●委員

先ほど話題にもなりましたが、南郷資料館はアクセスが悪く、なかなかお客さんを集めるのも難しい状況だと思います。ちなみに建って何年ぐらいですか。

○事務局

昭和55年にできた建物ですので、42年になります。

●委員

建ててから42年、だんだんと移転や新築の話が出てきますよね。建物も小さく、文化財を保管するのも大変ですよね。

●委員

博物館も40年ですので、今後どうしていくのか気になる場所ですね。

●会長

だんだんと方向性を考える時期に差し掛かっているのかもしれないですね。その他何かありますか。

●委員

八戸工業大学では創立50周年を記念して八戸地域の戦時遺構に関する研究を冊子にまとめております。これを読みますと、八戸では終戦間際の頃、市民の皆さんを総動員していろいろな軍事施設をこしらえたとされ、蕪島もその一つとされています。市民の多くはおそらくこうした事実を知らないのだと思います。

資料にまとめてくださった先生に敬意を表しながら、何らかの形でそれを市民の皆さんにお知らせしてもよいのではないかと感じていました。これだけ戦時中の遺産があるところは全国的にも珍しいですので、一度検討していただければと思います。

●委員

南郷にもトーチカがありますよね。もっと周知してもらってもいいですね。

●会長

南郷のトーチカに関しては、南郷資料館で継続的に調査していく必要があると思います。最後に事務局から何かございますか。

○事務局

世界遺産登録に関連して、是川縄文館、博物館、史跡根城の広場等の施設では今年4月から外国人を含む小中学生の入館料を無料とする予定としております。その件について、この場を借りてご報告いたします。

●会長

そのほか何かありますか。ないようですので、それでは（3）その他に移ります。
(以下、事務連絡等)